

上田市教育大綱(案)パブリックコメントの状況及び対応(案)

1 実施状況

- (1) 期間 / 平成28年2月1日(月)～2月26日(金)
- (2) 方法 / 2月1日号市広報及び市ホームページに掲載、市役所本庁舎及び各地域自治センター行政資料コーナーに配置
- (3) 件数 / 2件(60代男性、70代男性、いずれも窓口で直接持参していただいた。)

		御意見・感想	対 応(案)
全 体	1	大変口当たりの良い文面になっているが、心が伝わって来ない。どのような上田人になって欲しいのかわからず、達成するための方策が文面から読み取れない。大綱にはその意気込みが必要	(案)のとおり、大綱は人づくりのビジョンを掲げるものとする。 具体策である教育支援プランについて、大綱との関連性を示しながら市広報、ホームページでお知らせする。
	2	大綱なので目指す方向としては望ましいものと感じる。ただし、どこの市町村にも当てはまる無難な言葉の羅列のようにも感じる。上田市教育がレベルアップするよう具体策を幾つか提案する。	
個 別	1	サントは溢れる太陽の日差しと触れているが、まさにこれは幼児期の教育に欠かせない要素。太陽あり、小川あり、ため池あり、田んぼや畑の脇には野の花や昆虫などが生息し、一日中その場においても飽きない自然を上田市は持っている。保育園の建物の中で歌を歌ったり、飛び回っていても感動は生まれにくい。単なる時間消費だけでもったいない。学校教育も同様、算数、国語でも先生が感動したことを伝えるのが教育。だから子どもたちはいきいきと聞いていられる。先生それぞれの経験や考え方で感動したポイントは異なるが、要は先生の生き方を伝えることが大切。	教育大綱の基本理念と込める思いの一部を修正する。 ご提言いただいた「太陽の日差しと豊かな自然の中で感動を与える教育」を大切にしていって思いを込め、上田の特色である太陽(SUN)を「燦々と輝く」という表現で強調し、原案の「サント」の表記を「燦(々)と輝く」に変更する。併せて、「豊かな自然」の表現を加える。 わかりやすい授業、楽しい授業を目指す授業改善において、提言を生かすよう学校現場に伝えていく。
		サントに関して上田で実績を挙げた先人の苦勞についてどれ程感動しているのか。(三好米熊、清水金左衛門、下村亀三郎など)子どもたちに教え、伝えなければならないのは単なる事柄や物件でなく、その人物がもがき苦しんだ様子やそれを乗り越えたときの感動である。	小中学校授業で活用する副教材「(仮)ふるさと上田偉人伝」の作成を予定しており、提言を参考とする。 教育支援プラン「支援策13(P.22)」に取組を掲載
		大綱は学校教育だけでなく、生涯学習を含むならば、結婚時、妊娠時、幼児期に対する教育方針など、どのように子どもを産み育てるかの教育が重要で、それが抜けている。	上田市子ども・子育て支援事業計画において、親の子育てを支える視点、子どもの成長を支える視点、地域社会で子育てを支える視点で施策を展開しており、同計画と連携を図りながら提言の趣旨を生かしていく。
	2	教育環境の整備が遅れているため、子育て中の医師確保に支障があると思われる。医師が家族で赴任するためには、子弟の教育環境が重要な要素となっている。子育て中の医師を迎え入れるだけの魅力ある教育レベルになっていないと思われるため、高いレベルの中学・高校をつくりあげていく必要がある。	中高一貫校の設置は当面困難と考えるが、重要な視点と捉え、中学校と高等学校の交流・連携事業をモデル的に実施し、学習意欲の向上、魅力ある学校づくりを目指す。 教育支援プラン「支援策5(P.11)」に取組を掲載
		教育のレベルアップのためには、長野大学の公立化よりも中高一貫校の設置のほうが喫緊の課題と思われる。中高一貫校がないため、優秀な中学生が域外の中高一貫校へ進学し、市内の高校に残らない傾向がある。地元中高一貫校で学んでこそ、将来も地域帰属意識を持ち、地域の発展に貢献できる人材となり得るものと思われる。屋代、諏訪清陵高校に続き、松本深志高校も運動が行われている。上田高校に1学年2～3クラスほどの中学クラスを新設し、教育レベル向上と人材の流出を防止する必要がある。	
		中学生のスポーツ競技についての結果を見ると、市内中学校では、県・全国大会の上位で活躍できる生徒・競技が少ない。指導体制、生徒への動機づけが不十分ではないかと思う。熱意ある指導者を配置して、部活を活発化し、地域ぐるみで強化を図り、全国で戦えるスポーツ競技、選手を育成し、心身ともに強い人材を育成する必要がある。	スポーツ振興計画に基づき、中学校と競技団体の連携、外部指導者の派遣など競技力向上に向けた取組を検討していく。
	「歴史の街 上田」から「未来の街 上田」へのイメージチェンジが必要である。大河ドラマ「真田丸」放映で上田市が脚光を浴びていることは大変喜ばしいが、真田丸後、歴史上の人物以外に話題になる人物がいるのか心配。過去に活躍した人々の話題が多い上田市にとって現代に活躍している人々の話題をもっと提供していく必要がある。「歴史のある未来の街 上田」をアピールしていきたい。	キャリア教育の視点で、市内で活躍している企業経営者や若手起業家による出前講座を今後、小中学校に普及させていく。 教育支援プラン「支援策6(P.12)」に取組を掲載	
	教育委員のメンバーに民間で活躍している企業経営者も加え、社会に貢献できる人材の育成方法の策定に参加して欲しい。過去の教育経験者だけの教育委員では、思い切った改革提言は難しいと思われる。	現在4名の教育委員は、3名が民間、1名が教育経験者であり、提言の趣旨で構成している。	